



6/21 自衛隊進路指導者説明会



6/20 海上自衛隊取引支援セミナー(守屋契約課長による説明)



8/10 佐世保自衛隊後援会 2023 年度定期総会



6/20 海上自衛隊取引支援セミナー(入門手続きについて説明を受ける参加者)

■佐世保自衛隊後援会定期総会
8月10日(木)、ホテルラッダス九十九島にて佐世保自衛隊後援会2023年度定期総会を開催し、52名が出席した。左記5つの議案について諮り、全議案意義なく承認された。

- ・第1号議案 2022年度事業経過報告
- ・第2号議案 2022年度収支決算報告
- ・第3号議案 役員改選(案)
- ・第4号議案 2023年度事業計画(案)
- ・第5号議案 2023年度収支予算(案)

■海上自衛隊取引支援セミナー
6月20日(火)、佐世保地方総監部にて「海上自衛隊取引支援セミナー」を開催し、28社37名が参加した。セミナーでは守屋契約課長より、地元中小企業・小規模事業者へ配慮された簡易型入札制度「オープンカウンター方式」や、入札参加資格について説明を受けた後、入札室などの見学を行った。今年度は防衛予算増額に伴い、佐世保地方総監部における予算額も増加。身近なところでは、隊員の生活・勤務環境(備品、日用品、被服、宿舎等)の改善を重点的に推進し、中でも部隊からのニーズが高い空調(施設整備)の発注が増える見込み。

佐世保地方総監部では、昨年度約263億円の契約が行われたが、その中で佐世保市内企業の受注割合は40%に留まる。セミナーには自衛隊と取引をしたことが無い事業者も多く参加しており、新規取引の開始、地元企業による受注増加に期待したい。

■自衛隊進路指導者説明会
6月21日(水)、自衛隊長崎地方協力本部佐世保出張所と当後援会の共催による、進路指導者説明会を開催した。本説明会は、自衛官募集への理解促進を目的に毎年開催されており、県北地区の高等学校5校から、進路指導担当教諭らが参加した。

長崎地方協力本部佐世保出張所松本所長からは、自衛隊の魅力として、職種が多岐にわたること、職場風土が良いこと、福利厚生が充実していること等が語られた。また、昨年度から自衛官候補生試験の一部をwebで実施していることや、長期休暇取得促進、地元勤務への配慮など、働きやすい環境の整備を進めていることについて紹介があった。



TS23 オーストラリアで現地の戦没者慰霊碑に献花する梨木団長



新隊員後期教育課程 教育開始式



ニュージーランド駐屯フランス軍司令官ラティル准将を表敬訪問 (写真提供:水陸機動団)



PALS23 太平洋水陸両用指揮官シンポジウム

■後期教育課程教育開始式
7月4日(火)陸上自衛隊水陸機動団で、後期教育課程の教育開始式が行われた。全国の各駐屯地より18歳から31歳の新人隊員104人が着隊。約3ヶ月間、普通科隊員としての知識及び技能を習得し、水陸機動団の隊員になるべく各種教育を受講する。

■米豪主催多国間共同訓練
タリスマン・セイバー23(TAS23)
7月20日〜8月4日の間、オーストラリアで実施された米豪主催多国間共同訓練「タリスマン・セイバー23」に、水陸機動団が参加した。2005年に始まった同訓練は当初、米豪2国間の枠組みだったが、10回目となる今回は13カ国が参加し、最大規模で実施された。訓練の開始にあたり、梨木団長は現地の戦没者慰霊碑への献花、総領事及び退役軍人会の表敬を実施した。

7カ国(日・米・英・豪・仏・独・新)共同による統合火力誘導訓練、米海兵隊CH53Eに搭乗し空中機動により偵察部隊を作戦地域へ輸送する共同着上陸訓練、中隊主力による攻撃目標の奪取など様々な訓練を実施し、水陸両用作戦における自衛隊の戦術技量と相互運用性の向上及び参加国との連携強化を図った。

■インド太平洋方面派遣(IPD23)
インド太平洋方面派遣に参加中の水陸機動団は、仏領ニューカレドニアを訪問。旧日本軍潜水艦「伊十七号」乗組員追悼の慰霊祭に参加し、慰霊・献花を行った。またフィジーでは、駐フィジー日本国特命全権大使の川上文博氏を表敬訪問した後、陸海自衛隊合同チームとライジー軍のタツチラグビー等の交流試合を実施。別日にはマティノブ村において、現地の方とマングループ400本の植樹を行い、親睦・交流を深めた。

佐世保自衛隊後援会では退職予定自衛官の地元企業への再就職を支援しています

即戦力となる人材の確保を検討している経営者の皆様へ
退職自衛官再雇用のご案内

自衛隊では、精強性を維持するため、若年定年制(54~57歳)、任期制¹⁾(主に20歳代)という制度を採用しています。退職予定の自衛官は、在任中に多くの資格、免許を取得、また企業の即戦力となるべく様々な再教育を受けた後に退職されます。企業皆様におかれましては、退職自衛官の再雇用については是非ご検討くださいますようお願い致します。

¹⁾任期制自衛官=主に高校、大学等を卒業後、2~7年間ほど自衛隊に勤務した主に20歳代の若手人材。

■若年定年制自衛官の定年退職年齢(2020年1月~)

幹部			曹			
1佐	2佐	3佐	1・2・3尉	准尉		
57歳	56歳			55歳		
					曹長・1曹	2・3曹
						54歳

■退職自衛官再雇用 問合せ窓口

(一財)自衛隊援護協会 福岡支部退職自衛官 福岡無料職業紹介所
〒812-0027 福岡市博多区下川端1-3 明治通りビジネスセンター(別館) TEL.092(271)2462
海上自衛隊佐世保地方総監部 援護業務課
〒857-8567 佐世保市平瀬町無番地 TEL.0956(23)7111 (内)3309
長崎地方協力本部 援護課
〒850-0862 長崎市出島町2-25 防衛省合同庁舎 TEL.095(826)8846
長崎地方協力本部 相浦駐屯地援護センター
〒858-8555 佐世保市大瀬町678 TEL.0956(47)2166 (内)2366-2367

シリーズ ~日本遺産をめぐる~

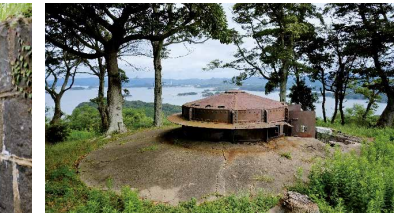
明治期の日本は、近代国家として西列強に対抗すべく、天然の良港に人と先端技術を集積させ、軍港として整備した。そうしてできたのが「鎮守府 横須賀・呉、佐世保・舞鶴」である。ここでは、佐世保に残る日本遺産・鎮守府の構成文化財を紹介する。

旧陸軍佐世保要塞 丸出山堡壘観測所跡
所在地:佐世保市俵ヶ浦町3115 見学・常時公開
丸出山堡壘に設置された28cm榴弾砲の砲戦指揮のため建設されたもので、ここに装備された測速機で敵艦との距離や弾着地点を観測して砲台に連絡するものであった。

基本的に観測所の標高と目標の水面の高さを底辺とする直角三角形を形作ることで目標の正確な位置を求めた。観測所の周囲に周濠が掘られており、海から観測兵の移動が見えないように工夫されている。装甲掩蓋が残されているのは日本国内では丸出山と由良要塞友ヶ島第一砲台(和歌山県和歌山市)のみである。



階段を登った先に装甲掩蓋がある



屋根や庇の劣化が進んでいる